

令和 4 年 8 月 30 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00280

研究課題名(和文) 戦国時代における百科全書的文芸の生成と武家故実との相関性に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive studies on correlation of the formation of encyclopedic literature and the classical samurai cord in the Sengoku Period.

研究代表者

小助川 元太 (Kosukegawa, Ganta)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：30353311

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、戦国時代の政治や文化を支えた「知」のありようについて、百科全書的な特徴を持つ文芸作品の生成と武家故実の関わりという視点から解明した。具体的な成果としては、以下のとおりである。1. 室町時代に成立した『アノ書』の本文分析をもとに、武士に影響を与えた『太平記』の享受や、定説とされていた『三国伝記』との関係について、新たな知見を示すことができた。2. 武家の儀式の際に『吾妻鏡』や「軍書」が飾られていた記録から、部屋飾りの書物が儀式の場を意味づける役割を果たしていた可能性を指摘した。3. 戦国時代に制作された「源平合戦図屏風」の中に、当時武士に愛好された能の影響が見られることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、戦国時代に書かれた武家故実と中世の文芸との関係について、百科全書的な特徴を持つ文学作品の分析をもとに論じたものであり、中世から近世にかけて形成された武士の価値観に文学が与えた影響を解明しようとする点に学術的な意義がある。また、江戸時代という比較的安定した社会を築いた武士が、文学によって知識や規範を身につけていった事実を示すことは、文学の社会的役割を見直す上で重要な意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：I researched about the issue that encyclopedic "knowledge" affected the politics and culture of the Sengoku Period Japan. Especially, I proved that encyclopedic literature works had had a great influence on the samurai family society. The result of the study is following these three points.

1. I performed the text analysis of "AINOUSHO" which written in Muromachi era. And then, I showed a new viewpoint about the issue how "TAIHEIKI" was read at that time. In addition, I pointed out that "AINOUSHO" might not be affected from "SANGOKUDENKI" unlike a common view. 2. I discovered the record that a samurai of the Edo era displayed "AZUMAKAGAMI" and "GUNSHO" in the room at the time of ceremony. And I discussed about the influence that a displayed book gave the place of the ceremony. 3. I found that influence of the Noh-play was seen on "GENPEI-KASSENZU Byobu" produced for the Sengoku period.

研究分野：中世文学

キーワード：戦国時代 百科全書 武家故実

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで、科学研究費補助金による研究で、中世後期に編纂され、主に戦国時代に享受された「百科全書的テキスト」をテーマに研究を進めてきた。

まず、「中世後期成立の百科全書的テキストに関する基礎的研究」(基盤研究(C)平成21年～23年、課題番号21520226、代表者：小助川元太)では、百科全書的な編纂物のありかたを中世特有の一つの表現様式と捉え、それらに共通する特徴を洗い出し、整理する作業を行うと同時に、それらの編者を取り巻く環境に関する調査を行った。

続く「中世百科全書的テキストの成立基盤に関する総合的研究」(基盤研究(C)平成24年～26年、課題番号21520226、代表者：小助川元太)では、研究の対象を百科全書的な編纂物から、百科全書的な特徴を持つ物語群へと広げ、それらの生成や享受の問題を解明するべく調査を進め、それらに共通する特徴や傾向を洗い出す作業を行った。

さらに、「中世後期における百科全書的文芸と武家故実の相関性に関する基礎的研究」(基盤研究(C)平成27年～29年、課題番号15K02216、代表者：小助川元太)では、中世後期に成立した、百科全書的な特徴を持つ物語や編纂物、随筆などを「百科全書的文芸」と捉え直し、それらに見られる記述と、主に武家家訓に書かれる主張を比較検討し、百科全書的な文芸の生成に武家の学問が深く関わっていた可能性を指摘した。

そこで、本研究では、これまでの研究を踏まえながら、「戦国時代に、なぜ百科全書的な特徴を持つ文芸作品が現れたのか」という本質的な問題を、戦国時代における武家故実との関わりの中で解明することとした。

## 2. 研究の目的

本研究の主たる目的は、応仁の乱から織田信長による天下統一までの、いわゆる戦国時代における政治や文化を支えた「知」のありようや意味といった問題を、百科全書的な特徴を持つ文芸作品群の生成と戦国時代における武家故実との関わりという視点から総合的に解明していくことにある。

## 3. 研究の方法

本研究では、(1)『壺囊鈔』の研究、(2)武家故実と百科全書的文芸の関係に関する研究、(3)武家故実の背景にある宗教や思想、文化に関する研究という3項目を柱として研究を進めた。

### (1)『壺囊鈔』の研究

申請者が発見した新出の東大資料編纂所蔵徳大寺家旧蔵本『壺囊鈔』は、最も古い書写奥書(弘治4年1558)を持つテキストであり、『塵添壺囊鈔』の成立に近い時期に書写されたテキストである。『壺囊鈔』享受や『塵添壺囊鈔』の成立、同時代の百科全書的文芸との関わりなどの問題を解明するのに重要な鍵となるテキストであると思われる。本研究では

翻刻作業と並行して、記事や説話の典拠とされている他の文芸や伝典等との比較作業や書写奥書の内容に関わる調査などを行った。

(2) 武家故実と百科全書的文芸の関係に関する研究

戦国時代における百科全書的文芸の流行という現象の背景を解明するために、当時の武家の社会的立場や彼らが生み出した独自の文化を、より多角的、総合的な視点から捉え直すこととした。そこで、たとえば能阿弥『君台観左右帳記』、相阿弥『御飾記』、織田有楽斎『文禄三年前田亭御成記』などの描かれる部屋飾りの方法や、その背景にある茶道・立花・絵画などの世界にまで広げ、百科全書的文芸の内容が、戦国時代に広まった武家故実の世界とどのような重なりを見せるのか、あるいは、百科全書的文芸そのものが武家故実の世界でどのような位置づけにあったのかということ解明しようとした。

(3) 武家故実の背景にある宗教や思想、文化に関する研究

百科全書的文芸作品が享受された戦国時代から江戸時代にかけての文化事象と武家故実との関係について、宗教や思想、そして絵画や芸能といった文化の側面から明らかにする研究を行った。

#### 4. 研究成果

(1) 『搥囊鈔』の研究

東大史料編纂所本『アイ囊鈔』の翻刻作業は終了しなかったが、本文分析をもとに、武士に影響を与えた『太平記』享受の一端や、定説とされていた『三国伝記』との関係について、新たな知見を示すことができた。

(2) 武家故実と百科全書的文芸の関係に関する研究

武家の儀式の際に『吾妻鏡』や「軍書」の類が飾られていた記録や地方の大名家の文庫に豪華な装幀の『太平記』『保元物語』『平治物語』『吾妻鏡』等が残されていたという事実をもとに、部屋飾りの書物が儀式の場を意味づける役割を果たしていた可能性を指摘した。

(3) 武家故実の背景にある宗教や思想、文化に関する研究

中世以降の武家に影響を与えた八幡信仰について、その根本となる『八幡愚童訓』の諸本比較と分析から、現存する『八幡愚童訓』には足利幕府を意識した内容が含まれていることを指摘した。また、伊予国の八幡信仰に関わる伝承をもとに、中世から近世にかけて「武」が実質的な武力から、文化としての「武」へと変わっていく様相の一端を明らかにした。さらに、戦国時代から江戸時代初期に制作され、大名家に伝えられた「源平合戦図屏風」の中に、『平家物語』以外の要素として、当時武士に愛好された能の影響が見られることを指摘した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小助川元太	4. 巻 68
2. 論文標題 甲類系『八幡愚童訓』諸本の異同から見えるもの 承久の乱関係記事の比較を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 伝承文学研究	6. 最初と最後の頁 14-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11501/7900957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小助川元太	4. 巻 69
2. 論文標題 異本で読む『平家物語』 木曾の最期	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛国文研究	6. 最初と最後の頁 7-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11501/4435920	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小助川元太	4. 巻 53
2. 論文標題 湯月八幡宮の再興と武の物語	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 56-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小助川元太	4. 巻 66
2. 論文標題 教育学部の学生と読む古典文学 必修科目における『平家物語』『太平記』の読みの実践を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中世文学	6. 最初と最後の頁 52-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 「古典を 読む 」授業へ 「木曾の最期」を例として
3. 学会等名 軍記・語り物研究会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Pier Carlo Tommas, Akira Suzuki, Chie Nakane, Vyjayanthi Selinger, Ganta Kosukegawa
2. 発表標題 Writing and Remembrance in the "oboegaki" Genre : Battle Accounts, Literary Techniques, and the Reimagining of War Tales
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies , Ghent ( 国際学会 )
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 『アイ囊鈔』の『太平記』利用
3. 学会等名 唱導研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 『アイ囊鈔』と『三国伝記』
3. 学会等名 応永・永享期文化論研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 甲類系『八幡愚童訓』諸本の異同から見えるもの～承久の乱関係記事の比較を中心に～
3. 学会等名 伝承文学研究会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 武家の部屋飾りと文学
3. 学会等名 遼寧師範大学・愛媛大学学術シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 『アイ囊鈔』の 神護寺縁起 「我邦八神国トシテ王種未タ他氏ヲ雜エズ」
3. 学会等名 古典研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 異本で読む『平家物語』 木曾の最期
3. 学会等名 第58回 愛媛県高等学校教育研究大会国語部会（招待講演）
4. 発表年 2018年

## 〔図書〕 計5件

1. 著者名 中根千絵、薄田大輔（編） 薄田大輔、出口久徳、龍澤 彩、小助川元太、鈴木彰、滝澤みか、森田貴之、井上泰至、小口康仁、松浦由起、湯浅佳子、竹内洪介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 416
3. 書名 合戦図 描かれた 武	
1. 著者名 小助川元太、橋本正俊（編） 橋本正俊、川本慎自、谷口雄太、牧野和夫、高橋悠介、柏原康人、細川武稔、竹村信治、小林直樹、黒田彰、鈴木元、本井牧子、三田明弘、小助川元太、加美甲多、田中尚子、小秋元段	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 室町前期の文化・社会・宗教	
1. 著者名 松尾韋江（編） 井上 泰至、長坂 成行、和田 琢磨、小秋元 段、森田 貴之、北村 昌幸、君嶋 亜紀、伊藤 伸江、吉田 永弘、小助川 元太、山田 尚子、今井 正之助、黒石 陽子、呉座 勇一、李 章姫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 292
3. 書名 軍記物語講座 3 平和の世は来るか 太平記	
1. 著者名 福田晃・中前正志（編） 牧野和夫、佐藤愛弓、原田信之、児島啓祐、福田 晃、小助川元太、二本松泰子、山本 淳、高橋秀城、大島由紀夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 295
3. 書名 唱導文学研究第十二集	

1. 著者名 福田晃・中前正志（編）松尾恒一、福田晃、大島由紀夫、藤井佐美、佐々木雷太、小助川元太、原田信之、中前正志、二本松泰子、山本淳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 373
3. 書名 唱導文学研究第十一集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------